

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表: 令和4年 4月 8日

事業所名 さぼーとハウス和音

保護者等数(児童数)13名 回収数 11 割合 84.6 %

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	11					
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	10			1		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がい の特性に応じ、事業所の設備等は、バリア フリー化や情報伝達等への配慮が適切にな されているか	11					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境 になっているか。また、子ども達の活動に合 わせた空間となっているか	10	1				
適切 な支 援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に 分析された上で、児童発達支援計画*2が作 成されているか	10	1				
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイ ドラインの「児童発達支援の提供すべき支 援」、「発達支援(本人支援及び移行支 援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援 内容から子どもの支援に必要な項目が適切 に選択され、その上で、具体的な支援内容 が設定されているか	9	1		1		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われ ているか	11					
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫さ れているか	10	1				
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流 や、障がいのない子どもと活動する機会が あるか	6	3		3		コロナが納まつたら、地域ま たは園児の通園している保 育所との交流を計画してい く。
保 護 者 へ の 説 明 等	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説 明がなされたか	10	1				
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支 援の提供すべき支援」のねらい及び支援内 容と、これに基づき作成された「児童発達支 援計画」を示しながら支援内容の説明がな されたか	10	1				
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペア レント・トレーニング*4等)が行われているか	5	3	1	2		個別の参観日を計画し、園で の生活・支援の様子を体験、 見学してもらい、子育てに役 立ててもらおう働きかける。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの健康や発達の状況、課題につ いて共通理解ができているか	10	1				
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に 関する助言等の支援が行われているか	11					
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の 開催等により保護者同士の連携が支援され ているか	8		2	1		コロナの影響で行事 が中止となった。
16 子どもや保護者からの相談や申入れにつ いて、対応の体制が整備されているとともに、 子どもや保護者に周知・説明され、相談や 申入れをした際に迅速かつ適切に対応され ているか	11						

	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	11					
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	11					
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	10	1			一度だけ、書類の渡し間違いあり。	確認をきちんと行ない、今後間違えないように努める。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	9	1		1		小学校のように緊急時の引き渡し訓練などを検討する。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	8			3		避難訓練報告のプリントを配布する。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	11					
	23	事業所の支援に満足しているか	11					

\*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

\*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

\*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。